



先日、岡山理科大学で建築歴史文化センター第5回研究会があり、ジオパークの文化的サイトの活用について、鳥取市<sup>しかのちよう</sup>鹿野町の城下町の事例を紹介しました。鹿野町の城下町は、ジオパークの見所としてどのように紹介できるのでしょうか。今回は、歴史的な景観や建造物をジオパークの見所として、どのように捉えるのか、その一例をご紹介します。

## ジオパークの見所は？

ジオパークの見所となる場所はどんな場所でしょうか。珍しいあるいは美しい地質や景観は見所だと言えるのかもしれません。しかし、ジオパークはどうやってこのような景観が生まれたのか、そのストーリーがあってはじめて見所となります。このようなストーリーのある地形・地質があることがジオパークとなるためには必要です。また、動植物などの生物は、地形や地質等の環境が異なる場所には、異なる生物が生息・生育しています。このように、地形や地質などに影響を受ける存在として、動植物の生態系も見所となります。

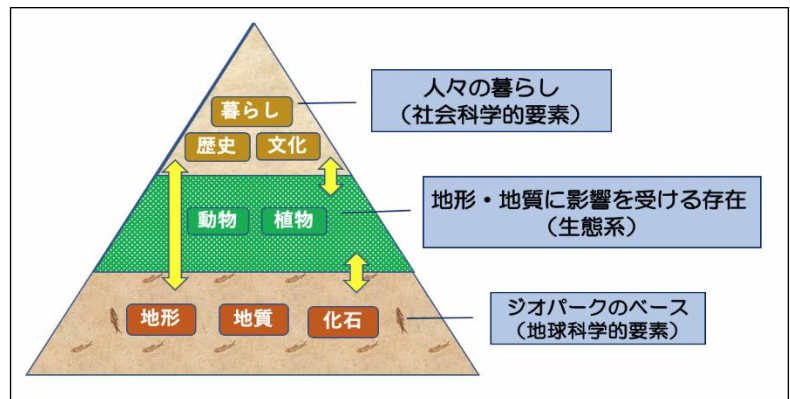


図1：大地に根ざした地域特有の資源（ジオパークの見所）

私たち人間も、他の生物たちと同様に、地形や地質の影響を受けて生活をしています。地形や地質の違いによって採れる作物が異なれば、それぞれの地域に特徴的な食文化が生まれます。また、雪が多く降る地域は、家の作りや人々の生活が雪の降らない地域とは異なります。そのような生活から、神話や伝説が生まれることもあるでしょう。私たちの暮らしや歴史・文化は、大地に根ざした地域特有の様々な物の上に成り立っています。したがって、私たちの暮らしそのものも大地に根ざした地域特有の資源であり、ジオパークの見所と言えます（図1）。

## 鹿野城下町の町並みの特徴

鳥取市鹿野町は、鳥取市西部地域に位置し、城下町はおよそ400年前に整備された道や水路が残り、戦国のまちづくりが感じられる魅力的な場所です。これらの道路や水路が整備されたのは、1581年に<sup>かめいこれのり</sup>亀井茲矩が鹿野城主となってからで、道幅や交差点、水路などは当時のままの形で残っています。特に、L字路やT字路は、外部からの侵入者があったとき行き止まりに見えたり、城とは反対方向に向かわせたりする造りになっています。また、城下町の中央には<sup>しかのおうらい</sup>鹿野往来が通り、牛つなぎ石や馬つなぎ石と呼ばれる穴の開いた石が7カ所残っています（写真1）。当時は、<sup>いなば ぼうき</sup>因幡・伯耆の交通や商業の<sup>ようしよう</sup>要衝の地点であったことが推測されます。

城下町に残っている古い建物は、江戸末期から明治時代の建物がほとんどですが、最も古い建物は1768年の建築です。これらの建物は、釘を使用しない「木組み」で建てられています。（裏面へ）

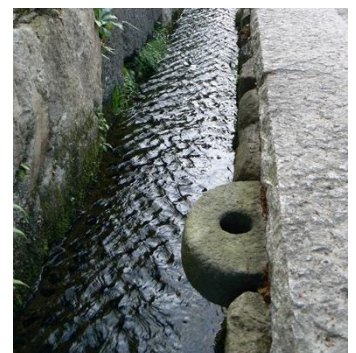


写真1：水路と牛つなぎ石



また、建物には「京風千本格子」が多く残っており、城下町の特徴的な景観の一つとなっています（写真2）。このように、鹿野の城下町は往時の面影をよく留めています。さらに、古い建物の造りには、大地の成り立ちと関係したある特徴が見られます。

## 大地の特徴が反映された建物

鹿野の城下町の北側には、南北に延びた3つの大きな谷があり（図2）、これらの谷は全て河内川によって大地が侵食されてできたと考えられています。水谷川もかつては城下町の中を流れており、現在の流路は亀井茲矩によって変えられたと伝えられています。つまり、鹿野の城下町は河川の流れが大きく変化した場所にあり、河内川や水谷川が運んだ砂や礫がたまってできた「台地」の上に造られているのです（図3）。

砂や礫が堆積した台地は一般的に水害に強く、水はけがよい土地です。鹿野の城下町は水害の心配がなく、石積みなどにより床の高さを高くする必要がないので、縁の下の低い建物が造られました（写真3）。

山陰海岸ジオパークエリア内でも、豊岡市の建物の造りと比較すると、それぞれの地域の

特徴がよくわかります。豊岡市では、2004年に円山川の堤防が決壊して水害が発生しました。過去に何度も水害を経験したであろう円山川近くの低地に立つ建物は、石積みの上に建物が建てられています（写真4）。鹿野の城下町のような建物の造りは、豊岡市では見られません。建物の造りにも、その地域の大地の特徴が反映されているといえます。

## ジオパークの楽しみ方

鹿野の城跡は昔から桜の名所であり、城下町も戦国時代のまちづくりを感じられる場所として、これまで多くの人々が訪れました。しかし、この地域をジオパーク的な視点で見られることはありませんでした。ジオサイトとして、これまでとは違う視点で城下町を見たとき、地域の特徴と景観、人々の暮らしとが繋がりました。また、鹿野は鳥取地震（M7.2）の地震断層（鹿野断層）があり、大地が大きく揺れた場所です。古くからある建物は、鳥取地震の揺れに耐えた震災遺構ともいえます。このような見方で城下町を歩くと、今までとは違う物が見えてくる町歩きができます。大地の歴史といろいろな物の繋がりを発見するのも、ジオパークの楽しみ方の一つです。（安藤）



写真2：京風千本格子が残る古民家



写真3：縁の下が低い古民家のつくり



図2：城下町の位置と河内川の流路変遷

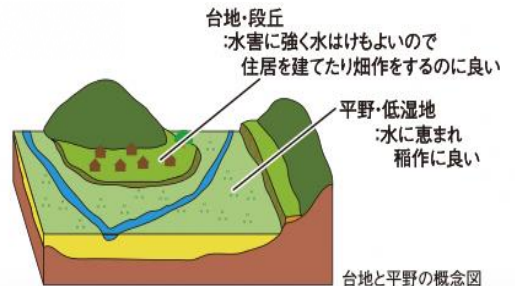


図3：台地と平野の概念図

（散策モデルコース鹿野城下町コースより）



写真4：石積みの上に建てられた建物（豊岡市）

- ◆ 3月12日（日）漂着貝の標本作り（申込み：2月26日から）
- ◆ 3月18日（土）今日から学ぶ高校地学（申込み：3月4日から）

今年度最後の講座です。  
ぜひご参加ください。